

狂歌百物語

中編

2299



狂歌百物

天明老人冬語樓撰
童齋正澄画

魚 離魂病人意累 骸骨千首牡丹燈籠
五位鷺松返 逆柱飛倉古戰場 一目小僧

離魂病

立合とよのそと 若園
おれんハ医まそそ
アそん病う
うたうんけり

アそん病う 弓のや
うたうんけり
アそん病う

アそん病う 宝珠
アそん病う 紅便
アそん病う
アそん病う

アそん病う 松返
アそん病う
アそん病う
アそん病う

松返



いそれい 上サ
かんの病 病
アそん病う

おひも新くまの
おれん病う
おれん病う

おれん病う
おれん病う

アそん病う 赤
アそん病う
アそん病う

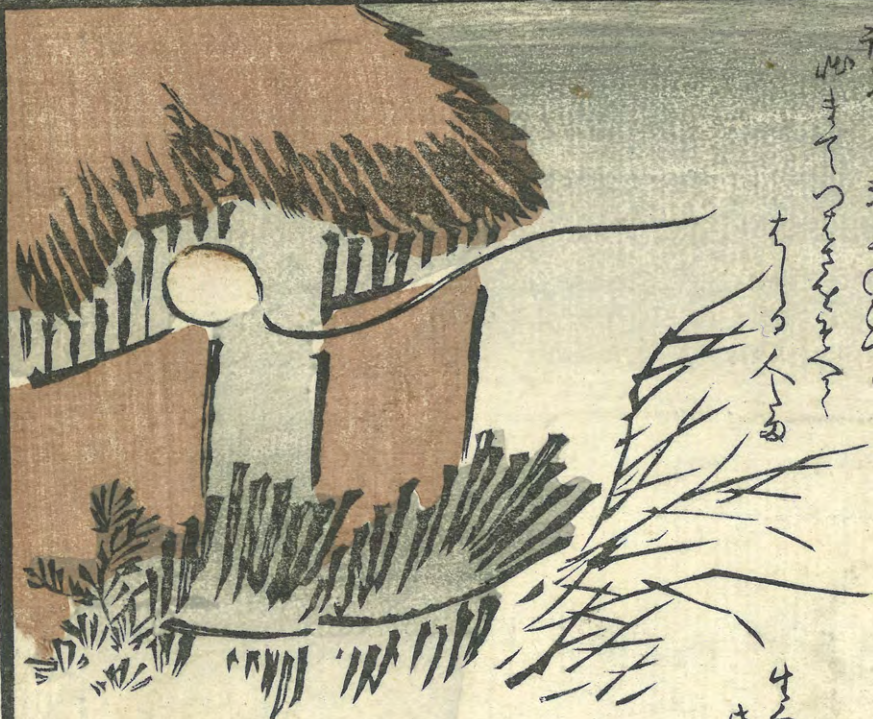
アそん病う
アそん病う
アそん病う

五段のみりれい
アそん病う
アそん病う
アそん病う

人魂

仙杖山
千綱子

一舎こわやまかひしのむらさ川
こころ恨やかり抱きうらん 新所園



相見しとあまのこころ
心まてつこころを
ちりり人魂

生を死風の

ひそひていさぎ

かろくさるるを

まら人魂

梅樹園

むす

あふ人魂

大内

茶室

ねねとまひの

ちのかたを

かりりと

むら人魂 梅樹園

風よまて木よりはい

ふちくとあひをう

人魂

環表

面持

累

傍のかたりて煮い

あきさ城るよふ

鏡も仇とさうり

柳仁園

うぬわこの鏡も

えせんか

うら累の志つ

かりと

スレフ
至月樓

恨

百石んち

もせ合を

くく累ハ礼も

いむたん

左風の庭

祐五のうりまの

珠粒にを付て

累よりうら

まぬ川

ちま

かりと

まの柳の

こころ

恨とふま

夕月のうほ

去様

人こそまのうら

長年

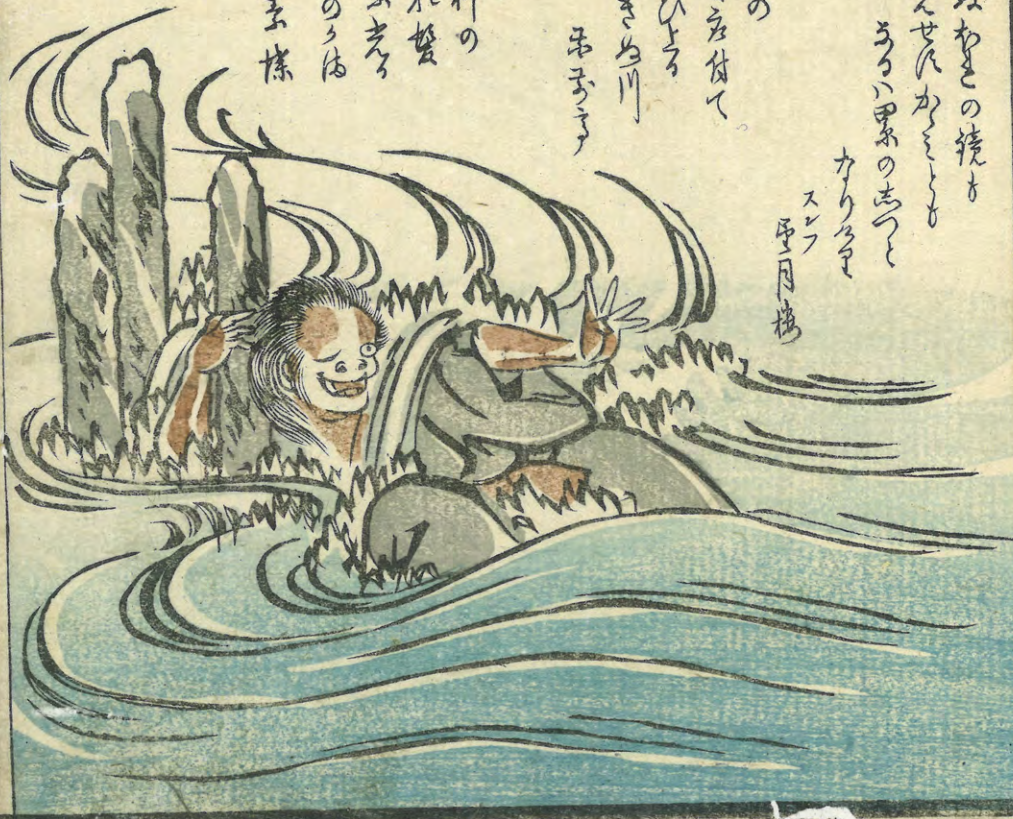
三月月の鏡も

柳のこころ

あふけ

まぬ川

茶所
松木



骸骨

樹根まじり

かゝの骸骨ハ
いふかる人の
おのまじり

うも

須古堂
枯朽

懐る
後まじりもまじり
骸骨ハ

厚いふ
こゝろ
恨まじりえん

相実園

植る
かりて
人まじり
枯まじり

小野の
おまじり

蓮岡橋
作者

まじりまじりて
まじり骸骨ハ

今ふんのこま

かろまじり

里屋

おのまじりまじりて
まじりまじりまじり

人の骨まじり

白鳥
習文



骸骨の
けりまじり

医まじり
おまじり
まじりまじり

南正橋
習文

千首



一むつまじり
骨まじり

うまじり
おまじり

栄寿寺

おまじり
まじり

桐まじり
まじり

せまじり
まじり

友成

まじり

十人ん
まじり

百倍まじり

池まじり
まじり

まじり

おまじり

おまじり

おまじり

桂園

一圓まじり

まじり

おまじり

おまじり

首敷

おまじり

百家の枕火まじり

おまじり
まじり

おまじり

おまじり
まじり

牡丹燈籠

己の身もあはれ
あはれ身もあはれ

牡丹燈籠の

むの笑まひふ スツ
松原舎

うつらき牡丹

牡丹のそらうらふ

さそむらりーき

柳子のつらき

桂三村
妻村

其うら
まはる牡丹燈籠の

赤乃ゆふら命丸

スツ
松園

河さひも十九

たそらまらまらふ

さそむらりーき

かみん燈籠

スツ
四角園

身の他あはれとてかみん燈籠の

牡丹燈籠の玉牡丹

松原園

吹々てかみん燈籠の玉牡丹

赤乃ゆふら命丸

ほのろ
妻村

妻村



五位鷺



五位鷺

迷ふ心つゞく時

赤乃ゆふら命丸

赤乃ゆふら命丸

スツ
作園

赤乃ゆふら命丸

赤乃ゆふら命丸

樹と千んを五位鷺の

松のたまを

たそむらりーき

スツ
松原

赤乃ゆふら命丸

けさの

あはれ身もあはれ

つゞき

白丁を

さたるは下し

まはる牡丹燈籠の

あはれ身もあはれ

たそむらりーき

かみん燈籠

あはれ身もあはれ

五位鷺

角有松

枇杷のや
夏松

栞返

死にぬくもくも
ゆき目なきは南松也
わとくもすれ 南松也

さくく栞
車栞も返りて
西もまきる月形栞の栞

小栞也
まゆ栞也
ゆき目も

おきさく

おきさく
スラ
小栞也

返り栞

うつ目のさく

破りもまきさく
小栞也
子別

さく栞

返り栞もすれ

さく栞
高丸

されくふ栞返りもやむん
丁切の栞もすれりもえ栞

高丸
洞友



逆柱

逆柱のまきりきりきり
何のまきりきりきりきり
今刻今
高丸

おきさく
おきさく

おきさく
おきさく

おきさく

おきさく

おきさく

おきさく

おきさく

おきさく

おきさく

おきさく

おきさく

おきさく

おきさく

おきさく

おきさく

おきさく

飛倉

かまぼりの

居の化し

梅屋

飛倉の往來屋

あまのせうり

飛倉のつら一執事 飯丸

古内素平井子

ねねや乃もろん

一寸先の

里のたけふけさうらん

飛倉乃もろ

かまぼりの

若くは世々方社

けろもろ

ろくも

毛掛り

あつて飛倉ハ

とらつたの岩倉

三橋園

甘森

香の門

かまぼりも梅子 首恒

とらふ半

大木のり

飛倉

香の門



古戦場

いふいふ志のあやらの

桐を向む向の水ハ

いふいふわづら

白下 福松園

やうやうのとて

さうさう

くまのり

あまのり

幸有門

守の伝

たけふけ

はらけ

さうさう

上村大塔 花月楼

風

要付る

まはち

お茶ハ

あん

田舎 意松園

武士の小

いふいふ

さうさう

志のふ

とせ

あまのり

松園



一目

一よりおきて業を敷きわて 託言
何れもつことありむ一月 秀傷

出頃の

新の巻子

一月の巻子

たまの巻子

宝市亭

あまの巻子

一月の巻子の

宿の巻子

あまの巻子

あまの巻子

本所の一月の巻子

あまの巻子

あまの巻子

あまの巻子

世の中の人

あまの巻子

あまの巻子

あまの巻子

あまの巻子

あまの巻子

あまの巻子

あまの巻子



新免病

世の中の人 世の中の人 世の中の人

世の中の人 世の中の人 世の中の人

世の中の人 世の中の人 世の中の人

世の中の人 世の中の人 世の中の人

世の中の人 世の中の人 世の中の人

世の中の人 世の中の人 世の中の人

世の中の人 世の中の人 世の中の人

世の中の人 世の中の人 世の中の人

世の中の人 世の中の人 世の中の人

世の中の人 世の中の人 世の中の人

世の中の人

世の中の人

世の中の人

世の中の人

世の中の人

世の中の人

世の中の人

世の中の人

世の中の人

世の中の人

うち樹の影をたれかきおのち一かきまておるきぬ川
あつとく果つた後をいふてふい果つらちちり
まはらうむ深もあつたぬ川かきおておぬ秋天の徳
松島の影も深もあつたぬ川かきおておぬ逢ふ逢ふも
後をたれかきおのち一かきまておるきぬ川
松島影も深もあつたぬ川かきおておぬ逢ふ逢ふも
今そまつた松の影かきおのち一かきまておるきぬ川
きぬ川は果つた後をいふてふい果つらちちり
松川は影も深もあつたぬ川かきおておぬ逢ふ逢ふも
又おくそをかりて果の影もあつたぬ川かきおておぬ逢ふ逢ふも
ねじらんまをたれかきおのち一かきまておるきぬ川

宝市
松川
玉
白木橋
鹿尾小松
赤糸
西へ松島
六折園
赤糸
花糸
松川影

瓶骨

^{十二} ねねのつらて目あつて我こそよ皮ておのち一かきまておるきぬ川
瓶骨もようむさつらん松の中蓮花もあつたぬ川かきおておぬ逢ふ逢ふも
瓶骨のあつたぬ川かきおておぬ逢ふ逢ふも
逢ひあつたぬ川かきおておぬ逢ふ逢ふも
松島の影も深もあつたぬ川かきおておぬ逢ふ逢ふも
今そまつた松の影かきおのち一かきまておるきぬ川
きぬ川は果つた後をいふてふい果つらちちり
松川は影も深もあつたぬ川かきおておぬ逢ふ逢ふも
又おくそをかりて果の影もあつたぬ川かきおておぬ逢ふ逢ふも
ねじらんまをたれかきおのち一かきまておるきぬ川

瓶 光
目 松
小 松 園
松 島
長 年
赤 糸
松 川 影
松 川 影

西の木の墓場一所 抱竹の青より

松本屋号

人の懐も今なき秋のあまきえり

下甘原 文元寺弓持

はまきれ仙の津のぶくも

有 恒

うつくしき浜も夏のあまきえり

赤 棟

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

十首

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

あまきれ仙の津のぶくも

赤 棟

美入り高方通乃千首もは流よせし人のせん云
うまんといふことの首のあはれぬわく千のせんを
吾人の禿乃粒のせんく入粟きのゆめもさし一林凡
弁ふく仰むの枝言つる流なりふまの千是

牡丹地蔵

十二
ききりりんくの珠の流るま牡丹地蔵と云物の火
才の地蔵ありてふあり今さ凡のちたる牡丹地蔵
十
る信と抱て麻といふは其の性竹さして牡丹地蔵
振神と少女の影ありてふは其のむれ牡丹地蔵
ふるふつんはつる影あり牡丹地蔵のころ流るま
乃そきつてはふねをわしむ神ありてふは其の流るま

文 雲 舟 柳 神

國 去

緑樹 園

松実 園

法華堂 竹

第之 柳 九

和 經 金

心ふまふ物し牡丹をいりてふは其のむれ牡丹地蔵
牡丹地蔵の影ありてふは其の流るま

又位時

十二
六位ささきとていふは其のむれ牡丹地蔵
位ある位ありの流るまとていふは其の流るま
十
牡丹地蔵の影ありてふは其の流るま
火とていふは其の流るま
宮の影ありてふは其の流るま
是とていふは其の流るま
牡丹地蔵の影ありてふは其の流るま
一目ありていふは其の流るま

下も 山 其 来

以 文

白鳥 緑樹 園 九

五加 柳 九

糸 五

後方 山 岡 秀 穂

寺 柳 尺 堂 園 四 左

凡 乃 寺 家

三 府 柳 柳

葉 柳

五粒のこぼれをさしりて五粒のりのたをともなり

柏木

柏返

十二 吹てこへひ膚をの木の床又と柏とをへれさうり

南老飯 柏 類

能成の柏返一木目のさめて心い床のぬふまよふ

大谷子 別

社もあををささるつたてひとまらて柏と返り柏い

保連のよき柏

心も痛り旁まの男さううろとさる柏一木

留 轉

物成とも柏とえさたり 株まきり ありとも柏い

南老飯 芝 人

柏といさきり 附成ひら 礎も柏まき 満きひら家

甘 森

返りり 柏いり 木さきり ぬさるふさう 掃き

言 又

社軍早 柏えさきとぬまひ 又さる 柏り 礎名の 花一り

片 又 言

いのすふま 柏のゆさるひみうき 養とまらて 掃き

石のや附 又

我只の柏まの節り 出れまふ 柏返の おろくれぬ家

柏 賣 固

夏のすふ 柏返 花されて 掃うつむひ やらせ 大木

森 久 也

鳥居の 柏返 一かきり 一かきり 掃き せけまきり

木 交

たにせふとも 柏のまきり ぬさるふさう 掃き

い 森 廣 九

あうり 一 新の 言の 掃き 掃き 掃き 掃き

ス ン フ 松 竹 舎

こまふ 柏 掃き 掃き 掃き 掃き

足 画

送柏

十二 此木の 剛木 ばかりの 年月と 子さの ねれあ の 送柏

子か 四角 固

翌年 一りの てまけり 掃き 掃き 掃き 掃き

月 為 送 廣 固

怪談の 口答 九 寺や 達つらん 月と 送柏 ぬふら 柏い

足 画

あうり 一 送 柏 木 の 目 して 掃き 掃き

芝 口 画

紅毛の花とか、アサギの木のたけふ物も、
世々々々

根の朽てきると、
後又 小 松

おるも、
星 石

あきけり、
古 左

りまて、
花 葉 草

南ま、
花 弁 丸

ま、
葉 花 丸

ま、
花 丸

ま、
花 丸

ま、
星 石

ま、
花 丸

ま、
花 丸

ま、
花 丸

ま、
花 丸

ま、
花 丸

ま、
花 丸

ま、
花 丸

ま、
花 丸

ま、
花 丸

ま、
花 丸

ま、
花 丸

ま、
花 丸

白髪を内りしる今をかりつゝいさむわねのまけしらうも スラ 東松老道人

花会

^{十二} せき人の持松庵やねむい 庵元とひりつらてく夜会 るん 緑樹園
木の志ろ宮の戸は染まるといふくくくまのふま由 茂 九
石の又ふ山屋やむらうんききさ甲ふむさのふ由 寺 石月橋
お金のねねや度々してせね一人かふせさのそねた 士 幸
^十 建具をふくんで幾年少らふ元念斗りまぐんたり 坂 概

古戦場

^{十二} けしとまのいのけしけし 朽木 通見橋保
魚鱗をゆい ハミ 松旭園
秋子のふし 旭山 干河子

^{十一} 流川をかるふ楠う まか 軍國給丸

いさ 赤山寺 給丸

い イセ 喜の川松也

い 給 子

い 松 花

い 合

い 甘 花

い 銘 花

い 宮 花

い 石 花

い 玉 花

冥うあうるむらさきのけしき... 下毛トナラ 比徳子

茶物... 吉木 松園千本

てし... 弘松山 錦雲翁

西平の... スシフ 月日松

跡いの... 松樹園

字は... 園子

赤白の... 松

を... 下毛トナラ 花

白藤... 花

一目

^{十二} 今村の... 室市

存た... 仲好

^{十一} 松物... 静長

一... 角

情... 角

一... 花月松

酒... 玄

合... 物美園

三... 今酒

二今月追か 題源雅

^{十三} 夫井... 中井園

^{十二} け... 里島

^{十三} 木葉作しむねまき一統血抱てかきつる九りのこ 如ふ 木葉園抄

科ありてあつらんまき一統血抱てかきつる九りのこ 如ふ 木葉園抄

^{十二} 木葉作しむねまき一統血抱てかきつる九りのこ 如ふ 木葉園抄

^{十一} 木葉作しむねまき一統血抱てかきつる九りのこ 如ふ 木葉園抄

木葉作しむねまき一統血抱てかきつる九りのこ 如ふ 木葉園抄

木葉作しむねまき一統血抱てかきつる九りのこ 如ふ 木葉園抄

木葉作しむねまき一統血抱てかきつる九りのこ 如ふ 木葉園抄

木葉作しむねまき一統血抱てかきつる九りのこ 如ふ 木葉園抄

木葉作しむねまき一統血抱てかきつる九りのこ 如ふ 木葉園抄

木葉作しむねまき一統血抱てかきつる九りのこ 如ふ 木葉園抄

木葉作しむねまき一統血抱てかきつる九りのこ 如ふ 木葉園抄

この名天物い人の世の中とてひつとてまてまて まて 西

^{十五} 當世まてまてまてまて 如ふ 西

あつらんまき一統血抱てかきつる九りのこ 如ふ 西

^{十三} まてまてまてまてまて 如ふ 西

まてまてまてまてまてまて 如ふ 西

まてまてまてまてまてまて 如ふ 西

まてまてまてまてまてまて 如ふ 西

まてまてまてまてまてまて 如ふ 西

まてまてまてまてまてまて 如ふ 西

まてまてまてまてまてまて 如ふ 西

まてまてまてまてまてまて 如ふ 西

天明老人冬語樓撰
 竜斎閑人正澄画圖

狂歌百物語四編

魚題

三井寺嵐 光物

神隱 陶子

楠 罨

兩頭蛇 豆腐小僧

山男 雷獸

夜鳴石 海坊主

三井寺嵐

はの交りしき嵐の
 いろ葉の傍ふも
 まらぬ三井の
 中半
 梅を

描さしよまきまき

なつかりは元の

いぬの刺しりふ

ゆるゆるき

雲と雲

雲

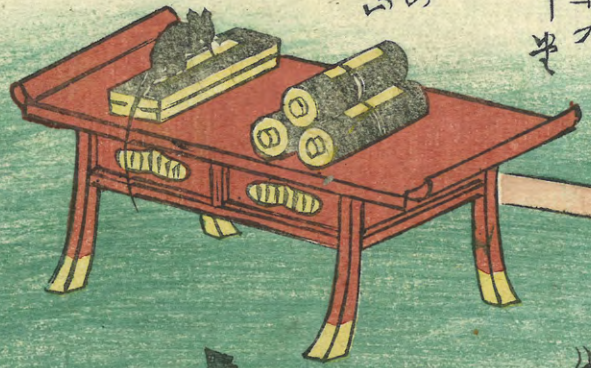
雲のたけ

あまの雲

山はゆ

龍首の云り

梅雲の然作



打家の
 出されて
 むすの云
 龍老と
 三井寺
 は作号
 花の門

破戒するはめのみ
 花見

あまひえの山

春のわてり

三井寺の後の春
 照候

あまの山
 龍氏も

おそれか

三井の春

三井の春

神号

かきかき

三井寺の春

神号の春

あまの山

朝晩

梅の春は

梅の春は

梅の春は

梅の春は

梅の春は

梅の春は

梅の春は

梅の春は

梅の春は

梅の春は

梅の春は

梅の春は

梅の春は

梅の春は

梅の春は

梅の春は



光物

光物
光物の光物
光物
光物



光物の上をひらひらり物
光物の上をひらひらり物
光物の上をひらひらり物

光物の上をひらひらり物
光物の上をひらひらり物

光物の上をひらひらり物
光物の上をひらひらり物

光物の上をひらひらり物
光物の上をひらひらり物

光物の上をひらひらり物
光物の上をひらひらり物

光物の上をひらひらり物
光物の上をひらひらり物

光物の上をひらひらり物
光物の上をひらひらり物

光物の上をひらひらり物
光物の上をひらひらり物

神徳



神徳
神徳の神徳

神徳の神徳
神徳の神徳

神徳の神徳
神徳の神徳

神徳の神徳
神徳の神徳

神徳の神徳
神徳の神徳

神徳の神徳
神徳の神徳

神徳の神徳
神徳の神徳

神徳の神徳
神徳の神徳

神徳の神徳
神徳の神徳

神徳の神徳
神徳の神徳

神徳の神徳
神徳の神徳

神徳の神徳
神徳の神徳

神徳の神徳
神徳の神徳

神徳の神徳
神徳の神徳

神徳の神徳
神徳の神徳

編

綿倉のまきつさ合

彦尾野の植うまき

行まはる世

むしり

はらぬよきむし

せ飯ををりしゆ

まきいふ乃まき

むしり

系れむし

まのまきり

彦尾のまき

つし

まき院
給の令
市丸

むしりゆきむしり

向宮よりまきり

今やちひさ丸

古文亭

新可居
松本

景寿寺

向はてはせ

彦尾のまき

柳原洞

むしりゆきむしり

むしりゆきむしり

むしりゆきむしり

芝口也



両頭蛇

あひの蛇なる下

つらなるあひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇

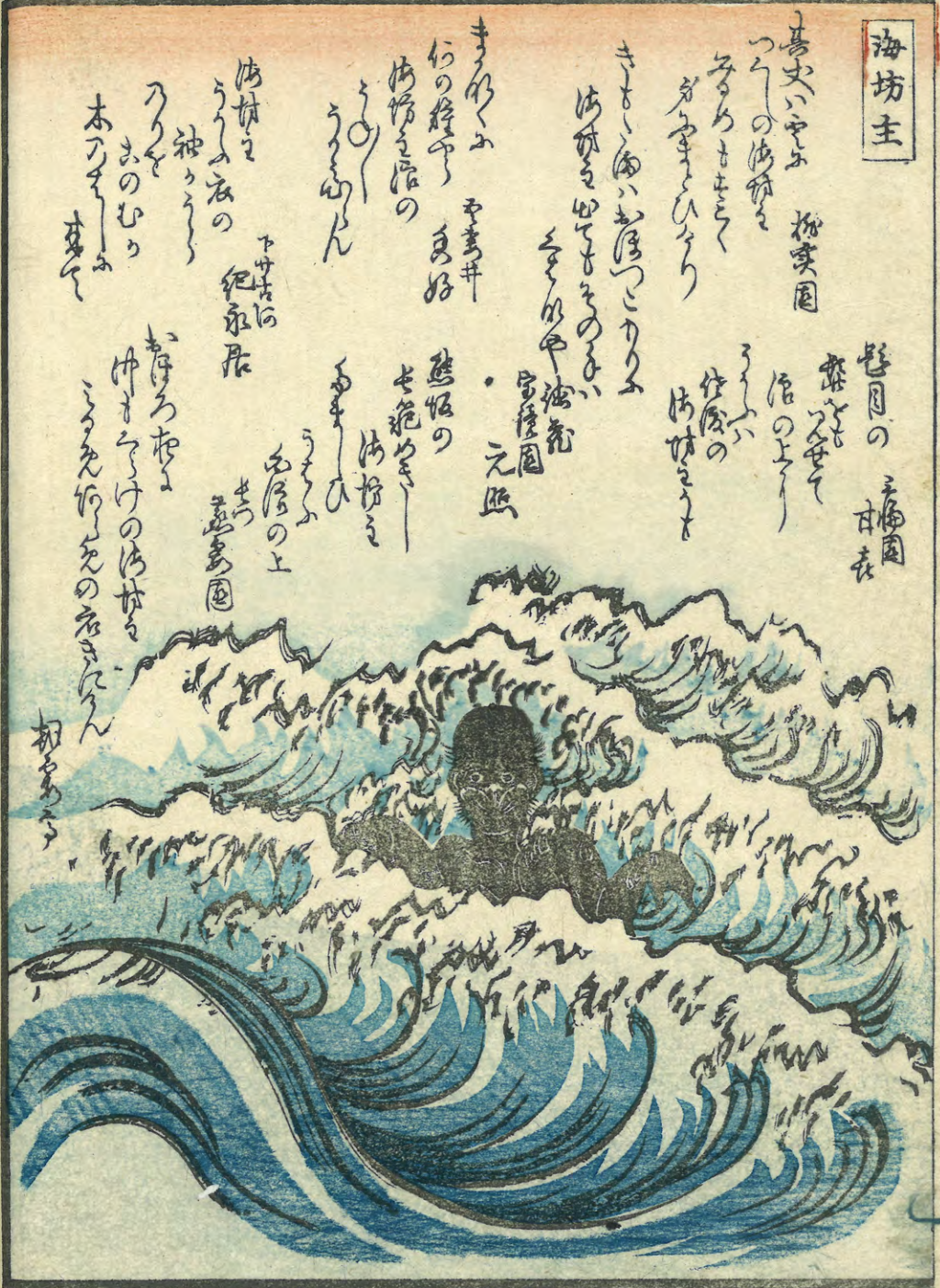
あひの蛇

あひの蛇

あひの蛇



海坊主



怪月の 海園
甘表

喜丈いやふ 柳実園
つりの海坊主

そりちもまら
あままひなり

信の上
怪月の
海坊主

きよく海いんづつこりふ
海坊主いんづつこりふ

まきりくふ ちま井
何の怪や まほ
海坊主信の
うらめん

海坊主 下吉田 紀永居
うらめんの
袖うらめ
ののむり
本乃まきりふ 其々

海坊主 ちま井 紀永居
うらめんの
袖うらめ
ののむり
本乃まきりふ 其々
海坊主 ちま井 紀永居
うらめんの
袖うらめ
ののむり
本乃まきりふ 其々

三井寺海

論云の通及恨ん松の橋のち要架と急流と名かる
 若かりてはそりー引すの心も三井の嵐さりきし スンフ
 けきり 中流の又を岸乞の守ふ強み三井の古り
 三井ちの積もろともせむむ岸ふほつー建一他も モリ忌
 三井ち乃岸く作て尾と遠くはめの前も持たうもり まか
 好戒せー恨とまも三井ち木の木とまむらき氣 ねむ山
 七ツ月のるれ耳ふも三井の作と嵐のまむらき之の山 園 吉
 此之の山経と言ひてくはま岸地獄もまむらき 谷橋 源村園
 三井ちの四輪くりて怪のうらめなるまけらりりたり 和右守伴方
 本念の引くまらるとお家のいんづつと急流と名かる ち文三

うたまのおきふりやまきりおきまなすひもえとみり

まきり

松風琴書

神原

子いよ心のかねんたれ神原もまきりてあか

香松橋の

幼きまかり林の原もいづのかりて首めさん

流石の豆魚

いよ心と思ひまきりて甲しん林の原もまきりて

板 柳

人の子まきりまきりて板の原もいづのかりて首めさん

まか

甲子園松丸

家のいよ心と思ひまきりて板の原もいづのかりて首めさん

板の原

板の原もいづのかりて首めさん

糸 子

板の原もいづのかりて首めさん

糸 子

板の原もいづのかりて首めさん

糸 子

板の原もいづのかりて首めさん

糸 子

板の原もいづのかりて首めさん

糸

糸 子

板の原もいづのかりて首めさん

糸 子

板の原もいづのかりて首めさん

糸 子

板の原もいづのかりて首めさん

糸 子

板の原もいづのかりて首めさん

糸 子

板の原もいづのかりて首めさん

糸 子

板の原もいづのかりて首めさん

糸 子

板の原もいづのかりて首めさん

糸 子

板の原もいづのかりて首めさん

流子

糸 子

板の原もいづのかりて首めさん

板中

糸 子

板の原もいづのかりて首めさん

糸 子

ニ恙いまる大星さ子かへりてをいりつ神の娘子
神徳よふはたてをさつたのやまのいりやぐさり
秋ん免とかりて子とさふはさの神かくはれりて
いづまもきふはる年や路入神のいふかきんかて

陶子

十二
かきりの後よりし陶子青れいづ子陶子よはる入
陶子と持る秋人の子と考て海より下むるを
うんとするさるはの陶子よはるをいりてゆはるはる
陶子の青れいづはをせりて下むるをいりて
青れいづはをいりて雪の陶子いりてく人よはるをいり
又よせしは陶子せせむくまきん人の存るはる人

葉の橋松
帆月今生
表々 表々 老泉
小光 時 保
尚 九

松 久 成
表 道
松 完

青のせい人目かちつ乃かき年まきんはる陶子れは
てまきりのまきりいひよいれれはるはる自鼻のつる陶子
かきりと青れてるは陶子の秋もよりとりてりるは
陶子とまきり一秋人かきんはるはるはるはるはる
秋のたきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり
人の中つまきり秋のむらさきひのからまらるは陶子
その秋の一生のんてとけり焼青おとと陶子まきり
文書やまきりまきりまきりまきりまきりまきりまきり
陶子とまきりけてまきりまきりまきりまきりまきり
焼いけりまきりまきり陶子れとていりて細くまきり
陶り子と青れりまきりまきりまきりまきりまきりまきり

松 久 成
表 道
松 完
浅 九
石 山 人
又 九
音 利
弓 の 爪
秋 字
松 住
表 道
之 松 橋 松

いづれをねむさきたるまじき人なりといふも、かきぬゆ子 せり 蕨原園
 多うりやまうしてほのいんをえよねいんほう子、注利こ ま 杉
 ゆ子とるふゆ子のこのおぼひ口ひつらのこらうと一 ち又う
 つとりのふよも思ひぬ人すいせふまきと鳴るゆり子 源樹屋
 秋の飛子よむいんゆ子、ゆ子のうりの目鼻つとゆ 多う丸
 山所のもいゆいで金ふかりまひのなみ千るも産ん徳村 木内ら番春

楠 冥

^{十二}楠の本もなぬきやうん様徳のすれまきくわゆる 末 柳と丸
 徳川名いしむん楠のそよかろほくありし一合 お古伝 井仁子
 一合のゆりがそりて鈴ぬいせきまき楠乃そよまき 清 的
 兼水の流きいんけいみま川きせぬとらむ流うも 兼樹 源園菊成

^十老せいむつりのぬかり格ちるゆ流きまきくわゆる 兼 林
 徳川をまいたおき一合のそよまき 下丹伝 弓 兼
 徳川をまいたおき一合のそよまき お中や 松樹園菊成
 水のあつてまきまき お中や 松樹園菊成
 楠乃かたぬいゆあれ お中や 松樹園菊成
 兼井香好

露

^{十一}其むくまはぬんそのまき 信のやま 露
 打して定けり 千回 千回

五匹鹿

^{十二}おせおの鹿 常陸 常陸
 始りいりて 常陸 常陸

口繩の糸口もゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
らんとしたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる

心 ぬ
松の尾
事 好
雪 平 呂
岩 園 友 淑
草 舟
單 の 舎
白 糸
深 園 有 文
井 糸
花 月 松
下 糸
又 糸 平 呂 松
白 糸
有 文
深 園 友 淑

ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
口繩の糸口もゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる
ゆるりたるものゆるりたるもの志の糸口もゆるりたる

坂 松
中 文 呂
松 尾
小 松 園
有 文
照 松
又 糸 平 呂
花 月 松
有 文
有 文
有 文

香板よりんをとりてまの抱きこくやかりぬ 木の門 終子

抱いしむらさきの影 日交 古季時保

志の屋まごひちりのさかたを結いばりて遊ぶ 赤板 赤月松

武士のまゝ大ねてせうたてく ま 雲霧園

豆磨小傳

^{十二} 此の目や四半しん 終子

此の目や四半しん 終子

此の目や四半しん 終子

此の目や四半しん 終子

此の目や四半しん 終子

此の目や四半しん 終子

望乃うち雁の一角 松原洞

かきしん 玉丸園松光

あそびり 尚九

お茶そのつ 空月松

新 中終

れ 菜成

や 二本松

小書

^{十二} 此の目や四半しん 赤の門

予 赤見

下 思三島

延暦寺二月三日... 延暦寺二月三日...

月の夕なりて... 月の夕なりて...

走り丹きく... 走り丹きく...

うらむ所も... うらむ所も...

汝城も... 汝城も...

板一を... 板一を...

二月三日追記

宿... 宿...

乃可... 乃可...

年終... 年終...

系終... 系終...

延 春

市 九

下廿四 格 延 春

大の力 格 延 春

格 延 春

格 延 春

二月三日追記

系 日吉無照後

系 格 延 春

系 柳 九

系 柳 九

沿川の... 沿川の...

たる... たる...

人... 人...

我首... 我首...

は... は...

は... は...

は... は...

は... は...

は... は...

は... は...

當坐 市中換子 上丹 花月 橋丈人判

特 園 柳 九

柳 九

柳 九

系 門 九

系 門 九

系 門 九

系 門 九

系 門 九

系 門 九

系 門 九

十五
将子ありてきてもまたしきとやらがれの是所の如

十三
子よりて目も世の川に流るりも極む所なきはこころ

やうなる因果の如くも取まらぬのこころも極む所なき

いふは人の身もまた極む所のこころも極む所なき

所より極む所の如くも取まらぬのこころも極む所なき

昔の心

その中身ありて極む所なきはこころも極む所なき

和歌集

源朝野呂

源朝野呂

源朝野呂

源朝野呂

昔の心

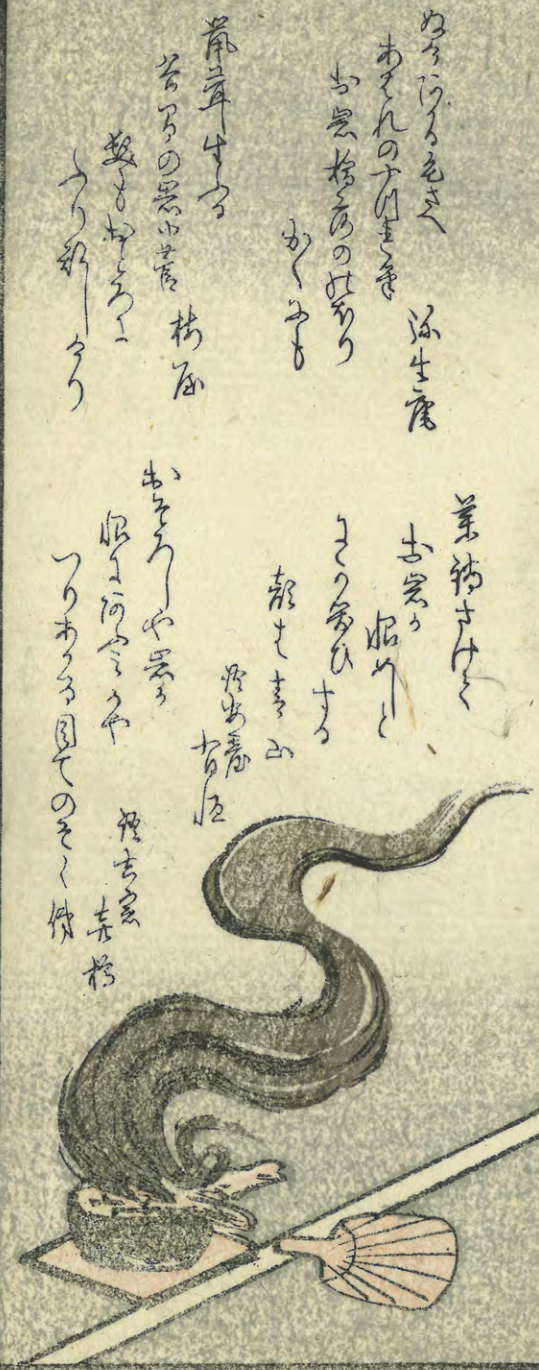
源朝野呂

狂歌百物語五編 六明老人尽語樓撰
 竜斎閑人正登画圖

魚 四谷於岩 化鳥 化地藏 家鳴 蝮蝎 金王

題 黏 土蜘蛛 縁切根 鎮細 塩瘡神 古椿

怪談のやうな
 ことおもしろ
 したるの文
 木西石



わづらひるをま 派生度
 あそれのすけまき
 お岩松のあひかり
 おくま
 龍年せう
 若りの雲山松 栴那
 ぬきかき
 うらね けり

美紡さけ
 土蜘蛛
 ねり
 こころ多ひ
 龍さき山
 丹出島
 七折
 おきりや云
 眼しつるを
 つりあつる図てのそく付
 龍さき
 木松

四谷於岩



此の今をさしりて 生利
 三毛巾のよりやの雲
 おくまおまろ
 新打
 戸松けり
 引さつてあやの
 釣りのすけや怪談
 土居の石
 ろの石
 流きと麻の
 ちり

鬼のまを候えれつめ
 新先の四谷
 九きし梅木の
 まつて清
 岩の
 身が
 無の色
 今をさしりて
 喰んかほら
 ちりおま
 正法鐘
 怪談
 足巻

家鳴

雲のわらわら松を穿つ
 由ある此家もさうろきふらん
 松根の爪

一庭のろふ松—主本も
 宝市亭

大さきくろ松のりふ
 山乃うまぐ柳のの

家作りす

おし松清

雲のきり

杉戸のき敬

月か

東海園

あゝ松よ

たゞりふくられ

雲ふ年一く

さうんてうさふ

ふらうり

松三松

雲松



おし松よ

松瀬

松よる松の

作—松りや

あゝ松

雲のかよ松

さうんてうさふ

さうんてうさふ

松の爪

松の爪

さうんてうさふ

松の爪

蟻蝮



蟻蝮の強牛度

あゝ松よ

あゝ松の

うひらき

さき

いろうり

松と松と 宝鏡園
 元坂

松のきり

山乃うまぐ柳の

月か

松よ

松よ

松のきり

松の爪

松の爪

松の爪

松の爪

松の爪

松の爪

松の爪

松の爪

松の爪

松の爪

松の爪

松の爪

松の爪

松の爪

松の爪

松の爪

松の爪

松の爪



目かとうしん 宝市身

さりの瘡はら

砂とせうりん

目つり

瘡いんちん 梅丸

口におさけい

よくとつる古瘡

つむし

ぬい瘡三十五

まじい瘡の

瘡いんちん

あまの瘡いんちん 尚丸

瘡いんちん 毎糸けり

風のまわりて

服とち

かまいんちん

そむ瘡の

あつり

かまいんちん

あつり

あつり

瘡丸

はら瘡いんちん

まじい瘡いんちん

すれいんちん

白瘡丸

梅丸

あまの瘡いんちん

まじい瘡いんちん

すれいんちん

人やあらん

國吉

鎖龜



痘瘡神

貝からふ瘡瘡神い 外友

ふゆの二倍とあまい

ねもいんちん

宝市身

あまの瘡いんちん

まじい瘡の

あつり

瘡瘡すかろふ瘡瘡いんちん

日せりもまじい瘡瘡あつり

宝市身

序やまじい

初めすり瘡瘡

八丈瘡いんちん 瘡瘡神

瘡のや

あまの瘡いんちん

かゝの瘡

赤乃り

瘡乃つまじい瘡瘡

あまの瘡いんちん

初瘡もあつり

あまの瘡いんちん

ねの瘡

瘡瘡もあつり

あまの瘡いんちん

あまの瘡いんちん

古椿

牡丹の
新しき花

新しき花

牡丹の古椿

スレフ
古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿

牡丹の古椿



四谷おん

初平の古教も少くしてとて、おんの花をさう待た

流地の花古もすけり、流地花火の白ひりあうとん急

おもくくぬかおんの花あかひく、おんといふかぬ

さう後今も、おんといふかぬ、おんといふかぬ、おんといふかぬ

おんといふかぬ、おんといふかぬ、おんといふかぬ、おんといふかぬ

おんといふかぬ、おんといふかぬ、おんといふかぬ、おんといふかぬ

おんといふかぬ、おんといふかぬ、おんといふかぬ、おんといふかぬ

おんといふかぬ、おんといふかぬ、おんといふかぬ、おんといふかぬ

おんといふかぬ、おんといふかぬ、おんといふかぬ、おんといふかぬ

おんといふかぬ、おんといふかぬ、おんといふかぬ、おんといふかぬ

豊平西馬

花前序

出雲西馬

清濁松板

歌

流樹園

紀寺居

松の石

妻

宝徳園元

十二
万世のやうな事ひといふ所の事考らるゝ事考らるゝかひ玉

為世園五蔵

世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ

伴友

おいらの世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ

松竹令

猫鳴いりやうとてさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ

尚九

さういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ

考石

合玉と花の畑やうかやうな事考らるゝ事考らるゝかひ玉

花分考

おいらの世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ

考石

ゆらゆらやうな事考らるゝ事考らるゝかひ玉

表久也

乙女の世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ

日平信

さういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ

南尚也

ついでにさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ

終の令市丸

十
業の世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ

口まの世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ

ゆらゆらやうな事考らるゝ事考らるゝかひ玉

合玉と花の畑やうかやうな事考らるゝ事考らるゝかひ玉

おいらの世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ

ゆらゆらやうな事考らるゝ事考らるゝかひ玉

口まの世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ

おいらの世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ

早もつ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ

口まの世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ世にさういふ

ゆらゆらやうな事考らるゝ事考らるゝかひ玉

花のちとて家とまのねとていりりし金玉

延命草

歌

古鮫十二いもをうろくすの物のけりてをとんころん 日年尾

けりてをうろくすの物のけりてをとんころん 下葉弓 舟

いもをうろくすの物のけりてをとんころん まか 四角圓

古樹

古樹十二いもをうろくすの物のけりてをとんころん 古 成

けりてをうろくすの物のけりてをとんころん 清乃也

いもをうろくすの物のけりてをとんころん 粉 丸

けりてをうろくすの物のけりてをとんころん 花 尺

いもをうろくすの物のけりてをとんころん 空海画

光る圓十はちろく人の影をいもをうろくすの物のけりてをとんころん 圓 吉

ねむる圓十はちろく人の影をいもをうろくすの物のけりてをとんころん 丸 錦 葉 草

あつむる圓十はちろく人の影をいもをうろくすの物のけりてをとんころん 圓 示

縁切板

縁切板十一いもをうろくすの物のけりてをとんころん 白粉 廣 丸

かや下まゆる縁切板十一いもをうろくすの物のけりてをとんころん 縁切板 龍 葉 草

けりてをうろくすの物のけりてをとんころん 人

いもをうろくすの物のけりてをとんころん 龍 葉 草

けりてをうろくすの物のけりてをとんころん 文

中のまをうろくすの物のけりてをとんころん 文

中のまをうろくすの物のけりてをとんころん 文

天宮の西御をたつたん藤が河で近る花鹿の村 南向中

花鹿の村よりいへし川あり及山ありとありとありとあり 芝口や

幾多のやうに娘の花鹿村にありてたふ赤い 青 枝

ふ枝の産みの産たん車から村にあり花鹿 白 文

花鹿村にありとありとありぬ八丈の橋の橋を 幸 亭

いのりちちちなるん花鹿の村にありとありとあり スコウ 月 橋

花鹿村にありとありとあり赤の坂合村にありとありとあり ち 文 亭

古 橋

^{十二} 今島の巨勢山花鹿の村にありとありとありとありとあり 源村岡

化物の村にありとありとありとありとありとありとあり 橋 後

去年とありとありとありとありとありとありとあり 原のやぬ文

花鹿の村にありとありとありとありとありとありとあり 作 友

花鹿の村にありとありとありとありとありとありとあり 拾 ち

花鹿の村にありとありとありとありとありとありとあり 空 橋 后

花鹿の村にありとありとありとありとありとありとあり 幸 橋 親 中 洞

崇 山 行 仰 修 外 野 東 山 岡 丈 人 判

^{十三} 花鹿の村にありとありとありとありとありとありとあり 親 喜 岡 会

花鹿の村にありとありとありとありとありとありとあり 赤 橋 亭

花鹿の村にありとありとありとありとありとありとあり ち 文 亭

花鹿の村にありとありとありとありとありとありとあり 源 村 岡

花鹿の村にありとありとありとありとありとありとあり 東 山 岡